

おにぎりの味

採用二年目、毎日の授業に悪戦苦闘していた頃、五年の理科「星の動き」の学習で、夜の合同観察会を開くことになりました。私はその日に向けて、数日間、学校の屋上に上がり、星の観察をしていました。市街地にある学校のため、きれいに見える星は限られていましたが、屋上からよく見える星を確かめたり、星の動きを十分ごとに観察・記録したりするなど、自分なりに教材研究に励んでいました。

三日目の夜は天候に恵まれ、星の動きを夢中になって観察していると、深夜の十二時を過ぎてしまいました。明日の授業で使うノートも見ておきたいので、その夜は保健室で泊まることにし、教頭先生から教えられていたとおり、警備会社に電話しました。

翌朝、校長先生が私の顔を見るなり、おにぎりを差し出されて一言。

「子供に分らんように食べてこられ。」

私はさりげなく渡されたおにぎりを受け取ったまま、しばらく呆然としていましたが、とにかくお礼を言って更衣室へ直行し、まだ温かさが残るおにぎりをいただきました。その塩味のきいた梅干しおにぎりのおいしいこと、おいしいこと。感謝、感激。

後日、教頭先生から聞いた話では、私が星の観察をしているとき、校長先生は時折その様子を見に来られたり、警備会社と連絡を取り合ったりされて、私が教材研究に集中できるように配慮してくださったとのことでした。また、おにぎりは校長先生の奥様が作られたとのこと。そうとは知らず、「教材研究」をいいことに、自分の都合で学校を自由に使っていたことを恥ずかしく感じたものです。

校長先生からは、あまり褒められたことのなかった私ですが、ちゃんと見てくださっていることが分かり、また、温かな心遣いにも触れ、心からやる気が出てきたことを覚えています。そんな姿を自分も目指していきたいと思いました。